

三翠化学会

(題字は稲川先生)

第 62 号

平成 25 年 8 月 8 日 発行
三翠化学会
津市栗真町屋町 1577
三重大大学院生物資源学研究所内
電話/津 (059) 232-1211
振替/名古屋 9-59345
印刷/株式会社 あるむ
TEL(052)332-0861 大 8 長谷川 正一

三翠化学会総会にもう一度活気を!

平成二五年度総会・懇親会のご案内

平成二五年度(土) 母校三重大で総会・懇親会
時間に余裕のある方は、志摩市で二泊(翌二四日)お伊勢さん参拝
お申し込み締め切りは返信用ハガキで八月末日まで

暑い日が続きますが、会員の皆様方におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。
さて、こしばらく二年前の総会(親同窓会)の日にあわせて開催して参りましたが、会の活気を取り戻すため、三翠化学会独自で総会・懇親会を開こうとの機運が盛り上がり、表記の会を計画致しました。また今回は、平成四年に榊原温泉で開催された合同クラス会をモデルに、二三日夜一泊、翌二四日にご滞宮で新装なつたお伊勢さんにお参りする計画も立てました。三重大学での総会・懇親会にはなるべく多くの恩師の先生方にご出席頂くよう計画しております。また、翌日の伊勢詣りにそなえ、滞宮の歴史にお詳しい山田雄司先生(人文学部教授)にご講演頂く予定です。久しぶりに恩師にお会いできるまたない機会ですので、ぜひご出席下さい。
時間の許す方は、そのあとバスで志摩市浜島に移動し、民宿「中井荘」で二次会(クラス会)を持って頂きます。人数の多いクラスは、クラス別に部屋をとって、少ないクラスは合同で二次会を計画しております。そこで一泊し、翌日近鉄で五十鈴川駅経由内宮参拝、その後バスで外宮前に移り、みんなで昼食をとった後団体行動を終了し、各自で外宮参拝を行って頂く計画です。
会費は、初日の総会・懇親会のみ参加の方五千円、二次会以降も参加頂く方は一万四千円追加で頂きます。また、計画の詳細は状況に応じて適宜変更する可能性があります。そこでご了承下さい。
会費を盛り上げて頂き、今後の三翠化学会発展の一ステップとしたいと考えています。皆様方のご参加・ご協力を切にお願い申し上げます。

記

【日時】平成 25 年 11 月 23 日 11:00 受付開始
【場所】総会・講演会 三重大学生物資源学部大講義室
懇親会(一次会)三重大学病院(新装)12階レストラン 四喜折々
二次会(合同クラス会)志摩市浜島町浜島 3246 民宿中井荘
電話 0599-53-0246
【会費】一次会:5,000円
二次会:14,000円(2日目交通費、昼食含む)
【幹事連絡先】小畑 仁:090-5627-3684 kgy6bhm4@za.ztv.ne.jp
杉崎 護:090-1624-6160 m-sugisaki@arrow.ocn.ne.jp
勝崎裕隆:katsuzak@bio.mie-u.ac.jp
二次会参加の方は会費 14,000 円をあらかじめ下記の口座に振り込んで下さい。
三重銀行三重大学前支店 口座番号 341716
名義:三翠化学会 会長 小畑 仁
キャンセルは1週間前までにお願いします。
(一次会分 5,000 円は当日受付で申し受けます)
【申し込み締め切り】ハガキで8月末日 厳守でお願いします。

会費振込みは九月末日までお願い致します。
なお、クラス会を計画しているクラスに関して、何らかの連絡が行っていないかと思えます。二重になります。こちらのハガキにも必ずご返事ください。また、その場合当方への返事の期日は少し遅れてもかまいません。

平成二四年度三翠化学会総会報告

平成二四年度三翠化学会総会が、平成二四年九月八日(土)二時より三重大学生物資源学部216教室で開催されました。こしばらく三翠同窓会総会(親同窓会)の日にあわせた二年前の総会が恒例となっており、当日は朝からあいにくの空模様で心配されましたが、会が始まる頃には日差しも感じられるようになり、梅川副会長の司会進行のもと和気あいあいとした雰囲気の中で議事が進められました。まず議長に木村氏(大25回)を選出し、勝崎幹事、三島幹事から過去二カ年間の事業、決算報告がなされ、今井監事(大9回)による監査報告の後、満場一致で承認されました。次いで平成二四、二五年度役員選出が行われました。本会の財政状況が悪化していることをうけ、農芸化学卒業生の過半数が民間企業で活躍している現状を本会運営にも反映させるねらいで、これまで役員として

ご尽力頂いてきた方々に加え、主に県内企業で活躍いただいている方々に打診の上内諾を頂いている旨事務局より説明がありました。原案が提案され、これも満場一致で承認されました。次いで二四、二五年度事業計画、予算案が上記両幹事より提案されました。本会活性化のため、二年おきの総会に加えその間にあたる来年何らかの行事を行いたい旨説明があり、来年の「選宮を機会として来年十一月を目途に本部支部合同の行事を実施することや、新たに選出された役員のご意見を結集してよい行事を考えたい旨説明が加えられ、承認されました。

本部総会終了の後、引き続き三重大支部総会が開催され、支部長より先の本部総会で承認された来年

二月ほど前から機関紙で説明致しておりますように、本会は新入会員の組織的な入会がなくなり組織が成熟すると同時に、財政的にも逼迫してきております。具体的には、現在年間の収入が合計八万円程度(機関紙を毎年発行しているので四万円の追加を頂いております)で、機関紙を一回発行すると送料を含め三五千円ほどかかります。役員会の経費や支部補助などで合計五〇万円ほどが必要で、現在は過去の蓄積で運営しておりますが、あと二回発行可能程度の蓄えしか残っておりませんので、まもなく行き詰ります。

財政の立て直しが急務

その後予定通り三翠同窓会(親会)三重大支部総会、親会総会、懇親会が開催され滞りなく終了しました。信し続けることが必要であることを強調され、卒業生として大学の現状について理解してもらえようように発

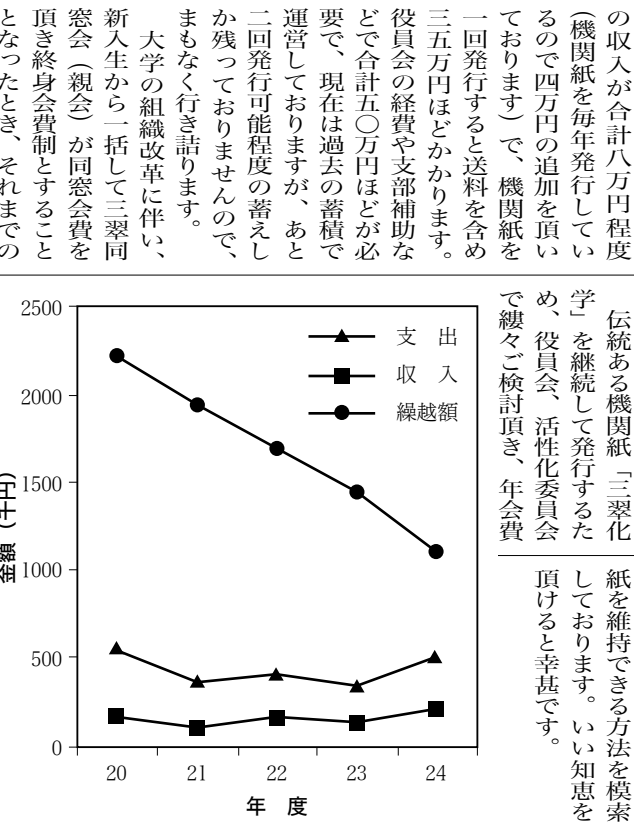
卒業 30 年を記念して同期会を開催(大 30 回)

大学を卒業してから、30年がたちました。ちょうど節目の30年ということで、平成24年7月に同期会を津都ホテルで開催しました。卒業式以来という再会もあり、昔話がありあがり。各自の近況報告では、子供の話、孫の話がある一方、結婚の話まで、それぞれの30年間の人生を語りました。担任であった熊澤先生にもご出席いただき、なごやかな雰囲気の中、旧交を暖めました。(刈田(大30)記)



平成 24、25 年度役員名簿

会長	小畑 仁
副会長	久松 久
理事	梅田 久、林田 久、嶋田 久、福田 久、杉本 久、川本 久、藤本 久、古池 久、吉田 久、古川 久、寺沢 久、原上 久、野山 久、伊藤 久、深田 久、中山 久、北田 久、道
理事	仁護 眞人、逸修 幸、秀仁 正、幸生 久、明久 吉、雅和 公、修平 丈、智信 順、幸完 隆、和修 裕
理事	益川 久、山澤 久、向原 久、粉川 久、大昔 久、中向 久、石出 久、鈴前 久、近藤 久、伊吉 久、龍田 久、服部 久、鈴木 久、中布 久、辻野 久、今井 久、勝西 久、三
理事	博郎 史子、之治 里子、香美 志夫、佐健 幸哉、二貴 一子、江弘 美也、一樹 広一、子滋 隆洋、惠佳 正英、久泰 佐健、裕啓 祥、主と 芳和、由智 恒芳、和浩 篤、裕昌
理事	30 31 31 32 33 33 34 34 34 34 35 35 35 35 36 37 38 40 43 44 44 45 46 47 48 9 36 42 29



第一四回三翠化学会関西支部交流会報告

平成二十四年一月十七日、第一四回となりまして関西支部交流会を、三翠化学会会長である三重大学名誉教授・小畑仁先生、特別会員として三重大学名誉教授の熊澤善三郎先生・柏村



直樹先生にご来賓賜り、新大阪のホテルクライトンにて開催いたしました。本交流会が毎年恒例として開催できるのも、ひとえに会員皆様方の暖かいご協力、ご支援のたまものであり、この場をかりて厚く御礼申し上げます。

今回は参加者が久しぶりに三〇名(三三名)を越え、例年にも増して盛況な交流会となりました。当日の様子をお伝えいたします。

第一部 関西支部総会
岸田幹事(大36)の司会進行により、物故者への黙祷、そして、古橋支部長(大19)より、「今回は、参加者が三〇名を越え盛況となり、今後とも魅力ある内容を企画、アピールして、さらなる参加者増で関西支部を盛り上げていきたい」との開催挨拶がありました。引き続き、小畑会長から「農芸化学は卒業生に民間企業への就職も非常に多く、さらなる組織強化を図るため、本年九月の本部役員改選では民間から多くの方々に委員に就いていただいた。三翠化学会は三翠同窓会に合せて二年毎・九月に開催(本年実施)されているが、当会の活性化のため隔年ごとの開催を実施したい。初回として、来年(平成二五年)は伊勢神宮

ご遷宮もあり、これを目玉とした交流会を企画しており多くの参加を呼びかけた。また機関誌である三翠化学も第六十号を越えまして、しかしながら、経費面など取り巻く情勢は年々厳しくなっている現状ではあります。三翠化学会としても皆様のご協力を得ながら、色々と知恵を絞っていききたい」とのお話しを頂きました。

第二部 談話会(関西支部交流会の目玉イベント)
今回は、企業で過ごしてこられたお二人の先輩に講演いただきました。まずは「陸生ホテルの光を築く」です。ホテルと云えば、ゲンジやヘイケであり水辺やその周辺で見られることを想像しますが、これは水生ホテルと言うそう

です。しかし、草地にも生息する陸生ホテルもあり、ヒメボタルがその代表例とのこと。何気なく捉えていたホテルも水生と陸生があるなど全く知りませんでした。愛知エリアでのヒメボタルに関する様々なこれまでの調査を中心に、最後はタイでの梅林名誉教授のお話しとともに広範な話題をお聞きすることが出来ました。続いて、三翠化学会副会長でおられる杉崎護氏(大16)から、「会社生活の思い出(企業のトラブルと危機管理)」と題した講演。勤務されていた会社で工場火災が起きてしまった、責任者として、その後警察や労働基準局での発生源因・管理体制などの取り調べや事情聴取、また一日も早い操業再開への折衝

工作など、なかなか見聞きすることのできない内容を臨場感たっぷりとお話しいただきました。余談ですが、警察での取り調べ室は、二時間ドラマと同じような設定でしたが、昼食にカツ丼は出てこなかったお話しなど、シリアスの中でもユーモアを交えて講演され、大変印象に残りました。

第三部 懇親会
記念撮影をはさみ、皆様のお楽しみ懇親会のスタートです。司会は菊地(大40)・澤本幹事(大43)の若手コンビにて進行。まず、会場(ホテルクライトン)のオーナーである岸本さん(専2)の発声で乾杯。おいしい料理・お酒そして楽しい欲談もは限り、非常に和やかな雰囲気でごせり、ひとときです。今回は、

谷口・大久保・児玉さん(大20)の三名が新たに参加され、楽しいスピーチを頂戴しました。特に児玉さん(有限会社・柑香園)が、一週前のフジテレビ系列(こちからは関西テレビ)で放映された「ほこ×たて」という番組に出演されました。内容は、柿が食べられない芸能人に、ご自身で経営されているフルーツガーデンで栽培する太秋柿を試食させ、見事、柿嫌いを克服させた内容のもので、放映以来「時の人」となり非常に多忙を極めておられるとのこと。ところで太秋柿はプレミアムな柿で、柿特有のネバネバ感がなくて梨やリンゴのようなシャキシャキ感があり、懇親会では、児玉さんのご好意により試食させていただきました。

た。希少な為、なかなか市場に出回らず、また非常に高級品ですが、確かに普段食べる柿とは全く違う食感と味覚でした。

今回も参加者の多くの方々にスピーチをいただき、あつという間に時間が過ぎてしまいました。そして恒例の応援歌を岸田幹事の発声で熱唱、中締めとして、谷中副支部長(大13)より来年の再会を期した閉会の辞にて、第一四回関西支部交流会はお開きとなりました。ご参加いただきました皆様、また支部運営協力費にご協力いただきました皆様、この場をおかりし、改めて厚く御礼申し上げますとともに、今後とも多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(菊地(大40)記)

第15回 三翠化学会関西支部(15回記念)交流会のご案内

日時:平成25年11月9日(土) 午前11時から
場所:ホテルクライトン新大阪
談話会特別講師(予定):谷中国昭氏(大13)、児玉典男氏(大20)
第15回と節目の記念交流会です。紙面では記載しきれないほど楽しく和気あいあいの絆の深まる交流会です。皆様もお気軽にご参加いただければと存じます。

第一二回三翠化学会関東支部総会報告

二四名の参加、総会・講演会・懇親会を船堀で開催(関東支部支部長 吉田 吉明)

第一二回三翠化学会関東支部総会は、二月二三日(土)一時から、会員二四名が出席し、江戸川区船堀の朝日信用金庫船堀センター内のコラボ産学官プラザ六階会議室で開催した。

平田副支部長(大20回)の司会進行のもと、吉田関東支部長(大18回)の挨拶、小畑三翠化学会会長(大15回)の来賓の挨拶の後、東海副支部長(大19回)を議長に選出し議案の審議に移った。

第一号議案は、平成二三年二月二六日、平成二五年二月二二日の支部活動報告で、吉田支部長から行った。第一二回総会(平成二三年二月二六日、二八名

参加)、第五回交流会・懇親会(平成二四年二月二五日、二四名参加)、関東支部第一回ゴルフ大会(平成二四年六月五日、取手桜が丘ゴルフクラブ)、併せて今期九回開催した支部委員会の概要を報告した。これらの内容を機関誌「三翠化学」とホームページに随時投稿したことも報告した。

次いで第二号議案の会計報告、会計監査報告、第三号議案の任期満了に伴う役員改選が審議され何れも了承された。役員として、支部長に吉田吉明(大18回)、副支部長に東海裕作(大19回)、浅井美文(大19回)、平田友良(大20回)、田中俊一(大20回)、監事に藤

川誠一(大20回)の各氏が再任、新役員として中島亨(大22回)、飯田徹也(大23回)が副支部長として選出され八名体制となった。閉会の挨拶で、吉田支部長から次回開催は平成二七年の二、三月に開催する予定で、関東支部再開一〇周年に当たること、平成二六年二、三月に交流会、そして今年二五年五月頃に第二回ゴルフ大会を開催する予定であり、会員皆さんの幅広い参加をお願いした。

引き続き、講演会が開催され、浅尾由一(大19回)氏から自ら経営する「有限会社グリーン化学の紹介」と題し、「正珪酸水溶液の製法」、「低分子キトサンの

製造方法」の特許取得の経緯から、それから波及する製品と販売戦略についての紹介があった。次いで、飯田徹也(大23回)氏からは「ビール始め」と題して、ビール誕生から日本における製造の歴史、ビールの製造法、そして美味しいビールを造るための技術革新の変遷など、演者の経験をも踏まえてビールの四方山話も含めて分りやすくプレゼンされた。

その後、今回の企画として、スカイツリーがオープンしたこともあり、富士山、スカイツリーなど三六〇度の絶景を一望することができ、船堀駅の近くのタワーホテル船堀(通称、船堀タワー)の展望台に希望者を案内した。

終わりに、今回の総会の出席者(敬称略)を紹介させていただきます。

岩田章(専1)、原弘(大8)、鈴木潔(大9)、辻野隆房(大

11)、亀山幸輝(大12)、市川正(大16)、白井英夫(大18)、高瀬敏(大18)、吉田吉明(大18)、浅井美文(大19)、浅尾由一(大19)、東海裕作(大19)、西出裕次(大19)、田中俊一(大20)、平田友良(大20)、藤川誠一(大20)、中島亨(大22)、飯田徹也(大23)、浦田茂也(大23)、別所明(大26)、坂倉正司(大30)、佐藤郁夫(大30)、滝野卓(大31)、酒井和好(大34)、小畑仁(三翠化学会会長)

この写真は、今年の四月末の会合で、藤の花を愛で、蛤づくしの料理に舌鼓を打ち、少々の旨い酒を飲んだ時の写真である。

ただ、平凡な会の繰り返しではあるが、普通のクラブ会とは少し違ったところがある。何時からか、もう三、四年になると思うが、一三回の谷先輩(旧松島)が加わり、ついで、一七回の岡田さん、平田さんが常連として参加され、また、一二回の若佐さん、四〇回の杉崎に

三翠化学会一六回生が集うの会

一六回生は、現在、年四回東海地区を中心にクラブ会を開催している。かつては五年に一度泊で先生方にも参加していただき開催していたが、ある時、大西英雄君が、六〇歳の停年(敷島バ)を境に、今までクラブの幹事をやることがない罪滅ぼしにこれからはずっと俺が幹事をやる

とのことで、三か月毎に七年間続いている。その大西君が、昨年暮れに人生を考えるところがあり、本土を離れ、沖縄の片田舎に居を構えることになり、昨年後半から酒井と杉崎で幹事を代行している。

会は、昼食会で、参加人数は、多くて一五名程度、少ないと七名と云うこともある。会場はいつも同じ、季節の料理を食し、少々の酒を嗜み、想い出話、日々の世間話、病気の話などをして散会する云々極めて平凡な会の繰り返しである。

以上、三か月に一度会(現在は毎回桑名で開催)を持つています。一六回以外の方の参加大歓迎です。東海支部の酒井か、本部の杉崎に連絡ください。(杉崎(大16回))



日本農芸化学会功績賞受賞 学生時代をふり返って

西田 律夫 京都大学大学院農学研究科(大20回)



この度、日本農芸化学会功績賞(題目:昆虫生理活性物質の化学生態学的研究を拝受することになり、恩師の熊澤善三郎先生(現名誉教授)から三翠化学会への寄稿を勧めていただきました。ここに感謝の意を込めて母校での懐かしい思い出など書かせていただきます。

私が子供の頃(五〇余年前)は、三重大学の敷地は海岸に向かって農場―松

並木―葦原が広がり、たくさんの昆虫が住んでいた。町なかに住む私は自転車で乗って、よくチョウやトンボを捕りに来た。その頃、とても不思議に思っていたのは、たとえばアゲハチョウが、どうしてミカンやカラタチなどの柑橘(ミカン科植物)にやってきて卵を産み、幼虫のイモムシはその葉だけを食べて育つのだろうか? という素朴な疑問であった。三重大学に入学すると、クラス担任の熊澤先生に頼み込んで、食草の葉や茎の抽出法を伝授してもらった。葉を切り刻んでアルコールに漬け込むと、美しく透きとおった緑色のエキスが得られた。これを濾紙にしみ込ませ、その上にアゲハチョウの母蝶を止まらせたところ、たちどころに卵を産みはじめた! 食草以外の葉のエキスでは産卵は全く誘導されない。特有の産卵刺激物質が何であるのか、どうして突き止めたかと思いついた。熊澤先生には卒論のテーマとしての許可を願った。いろいろな化学分析法について教えていただいたが、残念ながら当時の私の力では、この謎を解くことはできなかった。

ミカン葉に含まれるアゲハチョウの産卵刺激因子がフラボノイド・アルカロイ

関東支部第二回ゴルフ大会を開催 優勝は大18回の吉田吉明氏、原先輩エージシュートを逃がす

関東支部第二回ゴルフ大会を平成二五年六月五日(水)、取手桜が丘ゴルフクラブ(茨城県)で開催しました。本コースはJR常磐線藤代駅に近い(車で五分)

名門コースで、フラットなコースですが、池、クリーク、バンカーが随所に配置されており、嵌まる大たたきするコースです。今回は八名が参加しました。当日は絶好の天気、恵まれ、老若? 各選手が和気あいあいの雰囲気の中、一喜一憂の熱が入ったプレーを展

開しました。新ペリアのハンデ戦で行った結果、優勝は吉田吉

明氏(大18回)で、イン四三・アウト四五のグロス八八、ハンデ一五・六、ネット七二・四で、準優勝は原弘氏(大8回)で、イン三七・アウト四九のグロス八六、ハンデ二〇、ネット七四・〇でした。前回優勝者の長島貞武氏(大15回)はグロス八四のベスコでしたが、ネット七四・四で三位に終わりました。ブービー賞は平田友良氏(大20回)、初出場の飯田徹也氏(大23回)、内田博視氏(大19回)と、大19回の浅尾由一氏と東海裕作氏は振るわず、いずれも八〇台の高齢者先輩に後れをとった形となりました。

特筆すべきは、原先輩(大8回)のアウト二バーデイ、三七の快拳です。イ



シを四〇で回ればエージシュートの達成が期待されました。残念ながら四九と崩れましたが、堂々のグロス八六でした。週一日の神田物産(株)へのお勤めと、インターバルで二分間の速足を取り入れた毎朝一時間半のウォーキングを行っており、年齢を感じさせないプレーでした。

三翠化学会会員の交流をさらに深めるために引き続き開催します。次年度は、名門の千葉廣済堂カントリー倶楽部(市原市)を予定していますが、三翠化学のホームページでもご案内しますので、次回は多くの方の参加をお待ちしています。また、関東支部以外の方の参加も大歓迎します。ゴルフを通して支部間の交流を深めて頂ければ幸いです。皆様ご苦労様でした。

(関東支部長 吉田 吉明記)

など計一〇種の複合成分系であることが解明できたのは、私が京都大学に職を得て、かなりたつてからであった。それやこれや、これまでたくさんの昆虫を相手に食草認識成分・フェロモン・防御物質など生理活性化学因子を追いかけたが、学生時代に私を有機化学の世界の魅力に引き込んでいただいたことが、この境界領域を渡っていく上でかけがえのない礎になった。

そういえば、当時の農薬化学研究室にはガラス細工の工作台があつて、ロータリーエバポレーターもガラス細工を組み込んだ巧妙な手作りであつた。熊澤先生は若き頃、日本で初の赤外分光光度計を自作され、標的化合物の構造決定を達成

梅林正直先生 春の叙勲で瑞宝中綬章に輝く

梅林正直先生は、平成二五年度春の叙勲で、めでたく瑞宝中綬章を受章されました。

この慶事をお祝いするた

め、平成二五年六月一日(土) ホテルグリーンパーク津に、研究室でお教えを受けた者や担任して頂いた者などが集まり、受章記念祝賀会が開催されました。

当日は、八〇名にのぼる参加者を得て、阿部、館(昭四一年卒)両氏の司会のもと、盛大にまた和やかに会がもたれました。

盛大な拍手で先生ご夫妻を壇上にお迎えし、持参された勲章を壇上に飾って頂いた後、最初の専攻生である梅田氏(昭三八年卒)から会を代表してお祝いの言葉が贈られました。先生の赴任が卒業間じかでお教を受けた期間が三ヶ月にすぎなかったのに先生の存在がいかに大きかったかをユーモアを交えながら語られ、感銘深い祝辞でした。

次に先生から、授章の様子や、皇居に参内して天皇陛下に拝謁の栄を賜ったことなどお話し頂いた後、壇を降りられた先生から勲章を手にとつて下さい



平成25年6月15日 梅林正直先生瑞宝中綬章受章記念祝賀会 於 ホテルグリーンパーク津

たであろう。私たちは、そのの豊かな物質文明に浸っているが、あの頃、創意工夫の精神を鍛えられたことを今改めて感謝するとともに、その伝統を次世代に引継いでいくことの難しさを感じているこの頃である。

「人生五〇歳までは如何に生きるか」「五〇歳からは如何に死ぬか」などと、五〇歳前に他人に話すと、「そりやまだ早いよ」と言われて、早六七歳になる。正月が明けると、各所の成人式に出席し、お祝いの言葉を述べる。そういえば、下呂の方から、代表で誓いをと話をあつたが、お断りした。下呂の方が、多くの同級生に会えて良かったのと少し悔いを残した。當時を思い出して、現在の成人に何か贈る言葉はないかと考えるが、もう四七年前の事で、余りヒントは浮かばない。

ただただ時が経過したという感慨がある。「如何に死ぬか」は、「如何に生きるか」と一緒だよ、只、間違ひなくやってくる死を看み出されたい。成人とは、人に成ると書きまますから、ようやく人と成る入口に立たれました。大人とは、大きな人ですから、これから歩み方で、大人にもなるが、生き方の如何によつて小さな人の小人で終えるかだ」等と話しました。忸怩たるものですが。

四一歳の時、町会議員に立候補し、四九歳の時、県会議員に立候補し、それから

のなか、先生に卒論指導頂いた中尾(昭四〇年卒)、大久保(昭五一年卒)、大矢(昭六一年卒)、佐藤(平成六年卒)各氏から思い出話などが話されました。先生にはめられたこと、しかされたことなど、なつかしい思い出が出席者の心の中によみがえつたひと時でした。

その後、先生からタイでの活動について、映像を交えながら話して頂きました。特にテレビ東京系の番組で全国放映された「世界をかえる一〇〇人の日本人」で取材を受けた際、に撮影され、テレビでは放映されなかつた映像もお見せ頂き、興味深く拝聴しました。

タイでの活動に使って頂くため、本会からの記念品

は「七夕植樹祭苗代」とし、金一封が先生に贈られました。また内助の功の奥様には花束が贈られました。最後は最も若い川村、澤本、土坂、松岡(平成七年卒)各氏の音頭で元気に手締めを行い、めでたくお開きとなりました。

祝賀会の五日後には、今年一三回目になる七夕植樹祭主催のため、先生はお元気にタイのチェンマイに赴かれました。今後のタイでの活躍を祈念致しております。先生のご活動は、先生のホームページ「Dr. MANAOのおどろきTai Talk」に掲載されております。また先生の氏名漢字四文字をMSNかYahooで検索して頂くと、各種の記事がご覧になれます。ぜひご覧ください。

今、私は 駒田 誠(大16回)

から一八年、四年毎の厳しい免許更新を乗り越えてきました。バックボーンは、「第一次産業を疎かにする国家は滅びる」です。八〇人以上いた三重大学農学部卒の県職員、先輩・同輩・後輩を頼りにしてきました。又、「一人はみんなの為に、みんな一人の為に」のラグビー精神も大事にしてきました。人間磨きの二六

年かな。去年の五月から、凶らずも一二代の県議会議長に就任しました。四七年ぶりの団体開催で天皇・皇后陛下の随従等もあり、皆さんから、「幸運な議長さん」と言われましたがその通りだと思えます。今後とも「世の為人の為」精進(小人)の旅を続けます。感謝。

定年のご挨拶

久松 誠

定年退職後の近況です。三重大学教員の定年が六五歳に移行中です。小生の場合は六三歳で一端定年退職し、その後一年間特任で再雇用され六四歳で実質的に退職しました。その後は野菜作りや時々の観光やゴルフを楽しんで優雅な余生と思いきや、退職直前になって社会連携研究センターの管轄である伊賀研究拠点の話がきました。津から片道五〇km通勤しています。伊賀研究拠点は伊賀市と三重大学の相互友好協定をベースに経済産業省の地域企業

定年のご挨拶

今井 邦雄

三翠化学会員の皆様、ご無沙汰しております。お元気で活躍のこと、拝察申し上げます。これまで、四半世紀の長きにわたり、お世話になって参りましたが、去る三月三十一日をもって、三重大学を退職いたしました。在職中は、生物機能化学(旧農産物利用学)研究室で天然物有機化学を中心に、教育・研究させていただいてきました。その間、皆様方からは、多くのご厚情を賜りました。おかげさまで、無事退職の日を迎えさせていただきましたことができました。本当にありがとうございます。

立地促進関連の補助金で建設された「ゆめテクノ伊賀(国道二五号線の上野東インターから約七分)の建物」の中にあります。活動はHPを見てください。地域圏大学はその地域社会と連携し強い絆を築いて個性を出そうとしています。所長は研究担当の吉岡理事・副学長が務めています。ここでは田口先生や荒木先生などのベテランの先生も地域活性化にご尽力されていますので、伊賀に來られましたら是非こちらに寄ってください。

退職後はのんびりすごそうと考えておりましたが、前任の小宮孝志先生から声



久松先生退職記念パーティ

平成 25 年 4 月 13 日、津市にあるプラザ洞津にて久松誠先生の退職記念パーティが行われました。久松先生より、昔懐かしい写真を紹介頂きながら、昔話に花がさきました。同門のみなさまに多くお集まり頂き、大変にぎやかな会となりました。(三島(院 29) 記)



北岸確三先生を偲んで



恩師北岸確三先生は、さる平成二四年一月二二日九三歳の天寿を全うし逝去されました。ご遺族により、先生は持病のヘルニアで暫く入院し、快復されたので退院の日取りを相談されていた矢先、思わぬ肺動脈瘤破裂におそれ他界された由でした。葬儀は、お若い頃から所属されていた東中野教会から派遣された牧師様により、お住まいに程近い久居の式場で厳かに執り行われました。梅林先生ならびに

近くに住む研究室出身者も参列し、梅林先生からは丁寧な弔辞がさげられ、心のこもったお送りができました。北岸先生は東京帝国大学農学部を卒業され、兵役の後、農林省農業技術研究所等に勤務し、昭和三九年八月三重大学農学部教授として赴任され、同五八年四月定年により退官されました。先生の学問に対する姿勢は見事なまでに真摯で実直で、そのこと自体研究室所属の我々に対しかけがえのないご指導となりました。北岸先生、梅林先生お二人が農林省の試験研究機関に在職後三重大学にこられたことから、お教えを受けた者の中に農林省や大蔵省での研究生生活を志す者が

大学近況

環境・情報科学館が新設されました。一階には大型ディスプレイが設置され、展示ホールとして、学生さんの様々な活動の発信場所になっています。二階、三階は、自習や、グループ学習に適したスペースが確保され、図書館とも二階の渡り廊下でつながっています。



環境・情報科学館の外観、図書館に隣接



2階の談話スペース



図書館正面玄関



風力発電装置

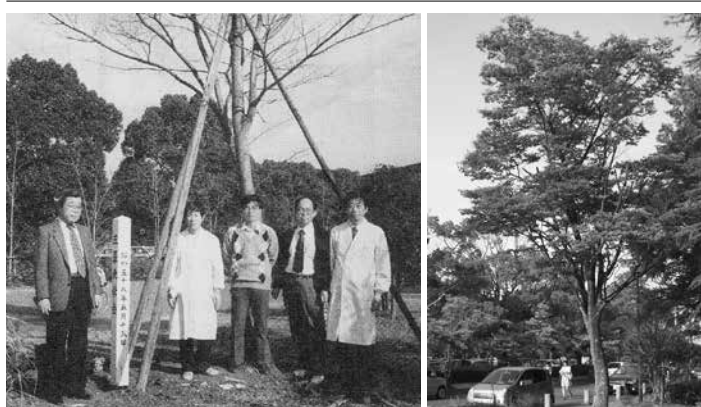
図書館の改装

図書館が改装されました。従来に比べ、学生さんの勉強スペースが大幅に増加し、勉強する場所としての図書館が定着しつつあります。三重大学スマートキャンパス実証事業 学内から排出される二酸化炭素を減らすことを目的にスマートキャンパス実証事業がスタートしました。また、災害時には、自立で発電設備を運転し、電力を供給する機能もあります。海岸近くには、三〇〇kWの風力発電装置、駐車場や校舎屋上などに太陽光発電五〇〇kWを設置、さらにガスコージェネレーション設備で二〇〇〇kWを発電し、大学全体の二酸化炭素二四％減を目指しています。

三翠化学会のHPのお知らせ

検索サイトで三翠化学会を検索いただくか、以下のURLでアクセスください。
URL <http://sansui.bio.mie-u.ac.jp/dosokai/kagaku/kagaku.html>
機関紙「三翠化学」のPDFもダウンロードできます。同窓会、同期会、研究室の同門会の開催予告などHPに掲載したい内容がありましたら、電子メールで菊田までご連絡ください。karita@innov.mie-u.ac.jp
またfacebookにも「三翠化学会」のページを作りました。facebookの友達検索で、「三翠化学会」と入力いただければ、アクセスできます。ぜひ「いいね」を押してください。
Google マップでのストリートビュー
Google マップでは、三重大学内のストリートビューを提供しています。コンピュータ上で、学生気分にもどって学内を散策してみたいでしょうか。
Google 地図にて、「三重大学」で検索し、ストリートビューで学内散策ができます。

記念樹の今



会報 36 号掲載の十周年記念樹と現在の十周年記念樹

昭和五八年五月に三翠化学会設立十周年を記念して植樹されました檜の標柱が腐つてしまいましたが、記念樹は元気に育つております。会報三六号に掲載された写真と、現在の写真です。